

岩手郡医報

平成5年7月 No.41

編集 発行
岩手郡医師会

題字 磐石町高橋孝先生



岩洞湖より（右）姫神山、（左）岩手山

一昨年春、藪川へ出かけた際、岩洞湖レストハウス付近からの岩手山、姫神山が同時に見える場所を見つけ、今春5月16日早朝雲一つない絶好のカメラ日和に、早朝4時30分に出かけて撮ったものです。

（玉山村 三善 悟 記）

目次

岩洞湖からの姫神山、岩手山.....	三善 悟.....	1
岩手郡医師会通常総会.....		2
各部会報告.....		3～5
平成4年度・一般会計決算書.....		5～6
平成4年度・休祭日当番医決算書.....		6～7
平成4年度・特別会計決算書.....		7
監査報告書.....		7
学術講演 急性心筋梗塞の最近の治療		
東北大第1内科教授 白土 邦 男 先生.....		8
おらほの先生 岩手町 塚谷医院の巻.....		9
近藤純造先生叙勲受賞祝賀会.....		9
春の叙勲で受賞して.....	近 藤 純 造.....	10
随想「樹木医」.....	高 橋 孝.....	11
随想「さわやか人生」.....	高 橋 牧之介.....	12
新入会員紹介.....		13
今日の話から.....		14
編集後記.....		14

岩手郡医師会通常総会

日 時：平成5年7月3日（土）P.M.3:00より
場 所：盛岡市駅前通りホテルメトロポリタン盛岡
司 会：及 川 忠 人

〈次第〉

1. 開 会 岩手郡医師会副会長
高 橋 孝
2. 会長挨拶 岩手郡医師会会長
高 橋 牧之介
3. 資格確認 出席24名委任状19名会員数
65名であり、過半数を超えているため総
会は成立。
4. 議 題
 - 1) 報告事項
 - ①各部会担当からの報告
保険（高橋孝）・学校医（上原）・産業
医（八角）・健康教育（上原）・生涯
教育（上田）・広報（嶋）・労災（篠村）
・福祉（八角）・臨床内科医会（西島）
代議員会（根本）
 - ②その他
 - 2) 議 事
 - ①平成4年度岩手郡医師会一般会計決算
書の承認について（西島）
 - ②平成4年度岩手郡医師会休祭日当番医
決算書の承認について
 - ③平成4年度岩手郡医師会特別会計決算
書の承認について
 - ④監査報告（高橋克郎）
 - ⑤その他
5. 閉 会 岩手郡医師会副会長
上 田 靖 彦
6. 新薬説明会（4:30～ ）
脳血管障害性精神症状改善剤“サープル
錠”紹介説明
富山化学 学術部
7. 学術講演（5:00～ ）
演 題 「急性心筋梗塞の最近の治療」
演 者 東北大学医学部
第一内科 教授 白土邦男先生
座 長 岩手郡医師会会長
高 橋 牧之介
8. 懇親会及び近藤純造先生勲五等双光旭日
章受賞祝賀会

〈会長挨拶〉



高橋牧之介会長

昨年は経済は低迷・
政治は昏迷という
一年でしたが、私
たち医師会は一年
を反省してみまし
ても、会務、各担
当役員の活動に関

しましても大過なくすごすことが出来ました。
感謝いたします。

政界が不透明な現在、政治も経済も社会のシ
ステムも大きく変革する波の中に浮いている
思いがします。

会員の皆様の英知を集結して、生き残りの処
方を見いだすほかありません。
強い医師会になってほしいものです。ご協力
をお願いいたします。

次の事についてふれてみたいと思います。

- 1) 先項の診療報酬改定と第2次医療法改正
- 2) 第3次医療法改正の中心課題・有床診療

所問題

- 3) かかりつけ医と地域医療
 4) 岩手県老人保健福祉計画の策定について
 5) 診療報酬に関して
 6) 岩手郡医師連盟執行委員会

〈報告〉

〈保険〉 郡医師会副会長 高橋 孝

平成4年度の社会保険医療担当者の指導状況は、集団指導として12郡市医師会でおこなわれ、606保険医療機関、1068人出席しています。当医師会は昨年10月3日、41医療機関94人の出席でした。

個別指導の結果については、いわて医報6月号「岩手郡医師会、長谷川貫一先生の『チャグチャグ馬ッコ』の絵が掲載している表紙の医報」に掲載していますのでお読みください。特に、診療録の記載が極めて乏しいこと、特に自家製の診療録を使用しているむきに記載が乏しいとのことでした。

診療録は保険請求の根拠となるものであることを充分認識し、特に症状、所見、治療内容の記載の充実に努めてください。

略字・略号が多く判読が困難である。誰にも判るよう略字・略号を使わず正確に記載してください。

診療録を更新する際には、既往歴・病歴・症状・経過の概略等を転記しておいてください。これが重要な項目です。

平成5年度指導方針も、集団指導と個別指導の2方法で、平成6年1月が岩手郡医師会の実施予定となっております。

〈産業医〉 郡医師会理事 八角 正司
 5月29日(土)に行われた産業医部会幹事会において、平成5年度の産業保健スケジュール

ルが以下の様に決まりました。

平成5年度産業保健スケジュール

6月24～26日(木～土)

第25回日本医師会産業医学講習会

【日本医師会館】

8月29日(日) 9:30～17:00

秋田県医師会産業医基礎(前期)研修会

【秋田県医師会館】

9月18日(土) 9:30～11:50

東北医師会連合会・第16回産業保健学会

【山形グランドホテル】

10月22.23日(金.土)

日本医師会産業医学講習会

【日本医師会館】

◆後期研修(産業医基本研修会)

9月11日(土) 14時～

◆実地研修(特定科目専門研修)

第47回産業医部会幹事会

10月2日(土) 14時～

◆生涯研修会(リフレッシャー研修会)

11月27日(土) 13時30分(総会)

14時～(研修会)

■第46回産業医部会幹事会

5月29日(土) 16時～

■第48回産業医部会幹事会

1月22日(土) 15時～

第16回関係機関との懇談

1月22日(土) 16時～

〈福祉〉

郡医師会理事 八角 正司(代理出席)

平成5年6月12日(土)福祉部会が県医師会館において行われ、これからの県医師会行事として、8月29日(日)釜石医師会担当による野球大会が釜石市平田運動公園を中心として行われ、9月15日(祝)には盛岡市医師会担当によるゴルフ大会が盛岡ハイランドC.

Cにおいておこなわれますので参加予定の方は頑張って下さい。

〈広報〉 郡医師会理事 嶋 信

「岩手郡医報」には皆さん目を通していただいているでしょうか

また「いわて医報」5月号には岩手郡医師会の紹介記事が掲載されています。

6月号には「くずかご」欄には葛巻町の西島先生が、また表紙絵には雫石町の長谷川先生が見事なチャグチャグ馬ッコの絵が掲載されています。

原稿が思うように集まりませんが今後とも努力していきたいと思っております。これからも原稿依頼もお願いすると思っておりますので御協力の程よろしくお願いいたします。「ものを書く」という作業が段々億劫になってきていることは確かだと思っておりますが思いついたとき或は感動の瞬間を記録にとどめておきたいときは必ずあるはずです。そんなときメモ用紙でもいいと思っております。ぜひ医師会事務局に送っていただければ幸いです。

尚7月17日(土) 県医師会館において郡市広報担当、いわて医報編集委員、健康教育委員の合同会議が行われます。

この模様は後日報告できると思っております。

〈臨床内科医会〉

郡医師会理事 西島 康之

**岩手県臨床内科医会夏季講座
日本医師会生涯教育講座
岩手県医師会生涯教育講座**

日 時	平成5年8月21日(土)午後3時～6時
場 所	岩手県医師会館4階大ホール
参加方式	自由参加
参加費	一人3,000円

講 演

1. 『腹部超音波検査の実際』

岩手県立中央病院消化器科医長 石川 洋子

2. 『不整脈の外来管理』

岩手県立磐井病院第二内科科長 小松 隆

3. 『外来における尿蛋白・尿潜血反応陽性者への対応』

岩手県立中央病院第二内科科長 清水 公

4. 『地域医療……現状と今後の課題』

岩手県医師会副会長 高橋牧之介

この講座は、日本医師会生涯教育講座認定3時間・岩手県医師会生涯教育講座認定3時間を取得でき、更に(社)日本内科学会認定内科医更新研修単位2単位も取得できます。

〈学校医部会〉

郡医師会理事 上原 充郎

① 第5回東北学校保健・学校医大会が8月1日、山形市で開催されます。岩手県からは3つの演題が提出されています。

② 7月10日(土) 県医師会館において第1回学校医部会幹事会が開催されます。その内容は次回に報告致します。

以上

〈健康教育〉

郡医師会理事 岡本 彰(上原充郎 報告)
健康教育委員会、各郡市医師会委員に対するアンケート調査に関する返事について

A. 県民健康講座のための健康教育委員会の開催は必要と思いませんか。

答. 従来通り必要である。

B. 共通テーマは複数年にまたがるものが良いと思いませんか。

答. 6年間同じテーマが良い。

C. 今年度の共通テーマは何が良いでしょうか。

答. 長寿社会にむけて。

D. その他、県民健康講座についてのご意見をお聞かせ下さい。

意見：岩手郡医師会は8ヶ町村で毎年1回講座を開いているので、他の医師会とは対応が違ってくると思われる。

〈労災部会〉 郡医師会理事 篠村 達雅
平成5年3月26日、第2回労災部会幹事会が開催されました。

◎平成5年4月1日の医療法改正に伴う社会保険診療報酬点数表等の改正により、請求書等の省令に規定する明細書の様式が一部改定されました。

1. 消炎鎮痛処置を複数の部位に行った場合の外来管理加算の取り扱いについて
2. 理学療法と消炎鎮痛処置を併施した場合の取り扱いについて

上記について、5月1日以後の診療分から取り扱うよう、各労災指定医療機関あてに、事務連絡が入っていますので御存知のこと

と思います。

同時に第7回岩手県損害保険医療協議会も開催されております。

◎自賠責保険について

平成3年9月に岩手県損害保険医療協議会で、日本医師会のガイドラインに基づき、新基準を合意確認しております。この新基準を本年10月1日より実施することを決めました。内容については、9月に説明があると思います。

〈代議員会〉 郡医師会理事 根本 忠夫

過日6月26日（土）県医師会館において第199回岩手県医師会臨時代議員会が行われ、平成4年度の県医師会決算についての承認の件など話し合われたが、その中で岩医厚生（株）は赤字決裁となっている。

また今回の衆議院議員選挙において県医師会政治連盟は保守系候補を1区2名、2区2名推薦することとした。

平成4年度・一般会計決算書

自 平成4年4月1日

社団法人岩手郡医師会

至 平成5年3月31日

(1) 収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
	円	円	
繰 越 金	1,735,000	3,879,638	前年度より繰越
会 費	4,440,000	4,287,000	A 会 員 95,000×38人= 3,610,000円 B 会員1期分 12,000×19人= 228,000円 2期分 12,000×20人= 240,000円 3期分 11,000×19人= 209,000円
補 助 金	85,000	508,000	県民健康講座 425,000円 地域医療 28,000円 学校医 55,000円
雑 収 入	70,000	156,848	預金利息・総会参加費他
合 計	6,330,000	8,831,486	

〈2〉支出の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
	円	円	
[事業費]	(5,650,000)	(3,764,424)	
会 議 費	2,000,000	1,833,784	総 会 (2回) 910,139円 理 事 会 (6回) 685,674円 役 員 会 (4回) 132,971円 県医総会費 105,000円
生涯教育費	850,000	241,537	医学講演会 241,537円
地域保険	400,000	595,620	県民健康講座 595,620円
広報発行費	600,000	312,893	印 刷 費 (4回) 272,332円 発 送 費 (4回) 37,677円 雑 費 2,884円
旅 費	350,000	451,900	
交 際 費	1,000,000	130,000	
慶弔見舞金	200,000	60,000	
広 報 費	100,000	83,690	
雑 費	100,000	5,000	
予 備 費	50,000	50,000	
[事務費]	(680,000)	(468,246)	
事 務 費	680,000	468,246	通 信 費 65,674円 消 耗 品 費 68,976円 リ ー ス 費 155,885円 事務処理費 120,000円 雑 費 57,711円
合 計	6,330,000	4,232,670	
次期繰越金	—	4,598,816	収入金額 8,831,486円 - 支出金額 4,232,670円

平成4年度・休祭日当番医決算書

自 平成4年4月1日

社団法人岩手郡医師会

至 平成5年3月31日

〈1〉収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
	円	円	
繰 越 金	920,000	4,837,034	前年度より繰越
補 助 金	3,600,000	3,699,000	
雑 収 入	10,000	0	
合 計	4,530,000	8,536,034	

(2) 支出の部

単位：円

報 償 費	3,580,000	2,225,278	健康教育費	1,200,000円
			県医野球大会	324,324円
			県医ゴルフ大会	25,515円
			救急対策費	405,821円
			学校保健会	16,840円
			厚生対策費	241,538円
			合同研修費	11,240円
需 要 費	350,000	2,600	通信消耗品費	2,600円
旅 費	350,000	290,000		
役 務 費	100,000	600		
予 備 費	150,000	0		
合 計	4,530,000	2,518,478		
次期繰越金	-	6,017,556	収入金額 8,536,034円	支出金額 2,518,478円

平成4年度・特別会計決算書

自 平成4年4月1日
至 平成5年3月31日

社団法人岩手郡医師会

単位：円

収入の部	金 額	摘 要
繰 越 金	4,660,465	前年度より繰越
岩手県医師会	388,928	乳児等医療費助成事業事務交付金
	634,732	乳児等医療費給付事業事務交付金他
県予防医学協会	126,000	検診立会医依頼事務手数料
県医師信用組合	160,000	第21期事務委託費
県医師国保組合	58,500	支部交付金
いわて医師(協)	79,000	平成4年度支部交付金
雑 収 入	49,005	預金利息
	12,000	優生保護法指定医更新審査手数料
合 計	6,168,630	

単位：円

支出の部	金 額	摘 要
岩手医学会	244,000	平成4年度会費 @4,000×61人
東北銀行	721	振込手数料(岩手医学会へ)
結核予防会	10,000	岩手支部へ
学校保健会	100,000	岩手郡地区平成4年度補助金
岩手県医師連盟	100,000	
合 計	454,721	
次期繰越金	5,713,909	収入6,168,630-支出454,721

監 査 報 告 書

平成4年度 社団法人岩手郡医師会決算書について

- 1.平成4年度岩手郡医師会一般会計決算書の承認について
- 2.平成4年度岩手郡医師会休祭日当番医決算書の承認について
- 3.平成4年度岩手郡医師会特別会計決算書の承認について

上記決算については慎重に監査いたしましたところ、その収支は適正妥当なものと認めます。

平成5年6月12日

社団法人岩手郡医師会

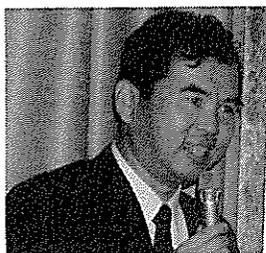
会 長 高 橋 牧之介

社団法人岩手郡医師会

監 事 和 田 栄 吉 佐々木 久 夫 高 橋 克 郎

学術講演

急性心筋梗塞の最近の治療



白土 邦男
東北大学第1内科 教授

虚血性心疾患
の死亡率は、昭和25年に比べ、
現在では4倍に

も増えている。なかでも急性心筋梗塞は、死亡例が急性期、特に発症早期に多く、プライマリー・ケアの重要な疾患の一つに挙げられる所以でもある。

心筋梗塞とは、冠動脈の硬化性病変を基本とし、同部位への血栓形成が冠動脈内腔の閉塞をもたらし、その結果、その支配領域心筋に壊死が生じた状態であるが、その際冠動脈攣縮の要素も加わって、冠動脈の閉塞を助長させる。このように心筋梗塞とは心筋が滅死に陥った状態であるが、急性心筋梗塞とは、臨床的には閉塞した冠動脈の支配領域心筋が梗塞巣を形成する過程というべきものであろう。

急性心筋梗塞の初期治療としては、発症早期における不整脈死が重視され、不整脈に対する治療の重要性が指摘されてきた。しかし、CCUの普及と不整脈治療の進歩により、一旦監視下に置かれた患者の不整脈死は大部分克服された。その結果、急性心筋梗塞の予後を決定する合併症としての心不全あるいは心原性ショックが新たに重視されるようになった。

1970年に開発されたスワン・ガンツカテーターはベットサイドでの肺うっ血の評価と心拍量の測定を可能とし、更に、血管拡張薬、強心薬、IABP (intraaortic ballon pumping) などの進歩と相まって、心不全の治療

東北大学第一内科

教授 白土 邦男

方針決定に羅針盤的役割をはたすようになった。しかし、その治療内容は対象療法域を出るものではない。

最近、急性心筋梗塞の発症早期に、一旦閉じた冠動脈を再還流することによって心筋梗塞の範囲を最小限に止めては心不全あるいは心原性ショックの展開を防止し、死亡率の改善入院期間の短縮、さらには社会復帰を容易ならしめるというより積極的な治療がなされるようになった。本治療は再還流療法と称され、心筋壊死領域の拡大する以前の発症後3時間以内、遅くとも6時間以内に行う必要がある。再還流療法の一つに末梢静脈より血栓溶解薬を投与する血栓溶解療法がある。

この方法が可能となった陰には、血栓に親和性が高く、しかも血栓と結合してその作用を増強させる新しい血栓溶解薬t-PA (tissue plasminogen activator) の開発が大きな役割を果たしており、事実、t-PAの末梢静脈内投与により、70%前後の冠動脈の再疎通がえられている。なお、t-PAも出血傾向という副作用は皆無ではなく、出血の危険性を有する例での使用は禁忌となる。更に再還流時、再還流性不整脈と称される色々な不整脈が出現し、生命の危険を伴うことから、本療法の施行にあたっては、不整脈に対する監視と処置の出来ることも不可欠である。

以上のように、急性心筋梗塞の最近の治療は、より積極的な治療へと変わり、進歩がみられる。今後は、本療法の効果が十分に発揮され、致命率の著明な改善が得られることを切望する。

(文責 高橋牧之介)

おらほの先生

私達の勤務している塚谷医院の院長は、今年6月30日で、満40才になったばかりの若い(?)院長で、3代目になります。

温和で、物静かな人柄の院長は、患者さんにはもちろん優しく、私達スタッフに対しても荒声をたてる事はありません。女性だけのスタッフですので、何かと大変な事が多いのですが、院長は難無く事をやってのけます。

開業以来、今日まで私達スタッフが仲良く働いて来られたのも、院長のまとめ役の素晴らしいさと、巧みな話術の賜だと思っております。

院長の特技をひとつ挙げるとすれば、「卓球」の他にないでしょう。

学生時代に御一緒だった先生方は御存知とは思いますが、あの温和な性格からはとても想像の出来ない程の素早いスマッシュは、目を見張るものがあります。ラケットを握った瞬間に人格が変わるのでしょうか。普段の反動でしょうか。

いつもの先生は、ああいづこへ……。

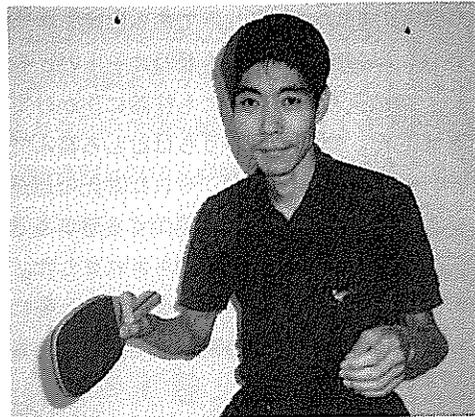
岩手町 塚谷医院の巻

近いうちに私達はチアガールチームを結成し、試合の応援に出掛けたいと思っておりますが、当の院長は、「バカ!!やめろ!!」と言って、見に来いよと誘ってくれません。

でも先生、そのうち必ず行きますからね。私達は毎日ピンポン拾いをしているのですから、招待されたい!!

皆様もその日の来るのを楽しみにお待ちしておりますませ。

以上 塚谷医院一同



特技の卓球スタイルの塚谷栄紀先生

近藤純造先生叙勲受章祝賀会



高橋会長より近藤先生へ記念品贈呈
(祝賀会にて)

近藤純造先生は旧東北帝大医学部卒業後、県立一戸病院、山田病院外科長として勤務した後、昭和28年より葛巻町で開業。以来39年間にわたって地域の医療、保健衛生にかかわったことに対して勲五等双光旭日章の荣誉に輝いたものである。

この受章を記念して岩手郡医師会高橋会長より記念品が贈られ、祝賀の宴が行われた。

春の叙勲で受章して ～思い出すままに……

葛巻町 近藤 純造

少しばかり長く郷里で診療していたと云うだけで、特に叙勲に値する仕事は何ひとつやっていませんが苦労話のひとつでも書いてお茶を濁させて頂きます。私が父の要請で勤務医を辞めて葛巻に帰ったのが昭和28年の暮れでした。当時は現在の車社会とは全く異なり、国道は勿論非舗装で、自家用車を所有している家庭などは殆ど無く、今と違って往診の要請が多く、オペの合間に往診に出かける機会が多くありました。中学2年頃から休みで家に帰ると、父が往診用に使用していた英国産の名車トライアンフ500ccのオートバイを無免許乗り回すのが楽しみであったオトキチの私は、早速趣味と実益を兼ねオートバイを買い、車の入れない場所にも往診に出かけて行きました。季節のようちはむしろ喜んで出かけたのですが、冬場、それに春先の道路の込むシーズンには流石に閉口する事があると云う事を嫌と云う程思い知らされました。

間もなくスポーツタイプを使用し、冬にはチェーンを巻いて隣の町村まで出かけたものでした。

それでも春先などには膝を没する泥濘で進め

ず、オートバイを置いて徒歩で患家に辿り着いた事も幾度かあります。大雪などがあると今の様にすぐ除雪車が出動するわけではなく、苦労した思い出も数々残っています。

稀に見る大雪の晩、15km程度離れた隣村の肺炎を起こした子供の往診の際は、GMCトラックを頼んで8時頃出かけたが途中で進めなくなり、迎えに来た当時としては田舎では珍しかった患家のジープに乗り換えて進んだが余りの積雪で進めず、全員でスコップで除雪しながら進み、患家に辿り着いたのが朝の5時になったと云う事もありました。その内岩手国体を期に281号線も舗装化され、北上山系開発事業などで町内の各部落の道路も整備され、車社会の到来と共に次第に往診の回数も激減し、救急医療体制も整って来て今では在への往診も殆ど無くなりましたが、それだけ往診で苦労した思い出が強烈に残っております。しかしこうした仕事も医師としては当然の事で、叙勲にあずかったのも郡医師会の先生がたのご指導とご支援の賜と改めて感謝申し上げる次第でございます。



カメラを手に…… 近藤純造先生



外来診察室で

随想

樹木医

雫石町 高橋 孝

今は殆どないが、昔は子供の患者も来た。症状を聞くのに、親がペラペラ話すのを少し制止しながら、「ドコ痛イ?」「コゴガ?」「ウン」「アア物言ワネド伯楽ニ診デモラワネドダメダド」「伯楽ダバ何モシャペラナクテモ、ドゴイデガワガルガラ、イツモ、物言ワネ、ウマッコ診デルガラナ」と言って子供に自分から症状を言わせる様に促したものでした。

伯楽とは皆さんも御存知と思いますが、本来は天馬を司る星の名前だが、馬の医者のことと言う。

この子供に対する言葉は、高橋会長の親戚の高橋北氏先生の言葉だったかも知れない。いづれ物を言わない、症状も話せない子供を診るのは怖い。「子供は小児科医に診せるべきで、子供は大人を小さくしたのとは違うのだから」と岩手医大若生教授（小児科）の話が思い出される。

麻酔は、オーベルストか定かではないがアメリカで子供の瘰癧の手術で、別の指を抜爪して裁判になった由、大人から「先生、その指でネェ」と言ったと思うが。

「ハア、モシモシ、去年枯れた松の近くの木ですか？葉が茶色になってきたんですか全般にですか？アア、一、二本の枝ですか、ハイ解りました。岩手県に三人しか居ません、私と、盛岡で開業している人と、もう一人はお宅の近くに居ります。盛岡の方に連絡してお伺いする様に話しておきますから」

「いや、それでは近くだと便利ですのでその方をお願いしますから」

「いやいや、近くの方は未だ経験が浅く、だめだと思いますので盛岡の方が良いと思いますヨ」

これは、去年私が最も良い松と思っていた

双幹の松が枯れて、今度は少し離れた所の松が、葉が茶色となり小枝が弱り垂れてきたので、檀木職に相談したら、樹木医に診てもらうようにとのことでの電話での会話である。

樹木医は、岩手県に三人しかいない由、仲々盛岡の樹木医からも音信もなく、日を追って松は葉が茶色になり、自分の身が舐まれて行く様な気がして、今後は岩手大学の先生にも相談して見た。

「医者も良いが、いつも木を見ている苗圃の方とか、実際に木を見ている方が良いのでは？」との事であった。一日位して樹木医なる先生がおいでになり、根本を掘ったり、小枝を切ったりしておったが、結局根が弱っているので、点滴をすることとなり、幹に穴を開けて、メネデルなる薬を点滴して帰った。一週に一度、メネデルを根本に散布してくれるようにとのことであった。

物を言わぬ物の病気は哀れでならない。

去年、双幹の松が枯れたときは、哀れさと、何か不吉なことが起こるのではとさえ思えた。

何れ、樹木医の先生の話は、又岩手大学の方の話を聞くと、私共と同じ様に経験を積み、症例を多く診て、特に物を言わぬ子供では、親が十分に注意して見守ってやらねば、そして、その親が医者より、誰よりも子供の健康を守ることが出来ることを知らされた。

小児科の先生も、又検査をしてもすべての機能が衰え、検査値に反応しない老人を診ている先生も、樹木医、伯楽の様に物を言わなくても診断を正確につけて、治療が出来る様に日頃の修練が必要と思いつつ、診断治療が的確で全治することを願いつつメネデルを今日も散布している。

随想

さわやか人生

滝沢村 高橋 牧之介

人と人との出会い、これが人生であるといわれます。

長い生涯で数多くの善き人々と出会えることが、大きな幸せといえるのではないのでしょうか。しかし、善き人は向こうからやってくる、ただ待っていれば善人と出会えるというものではないわけです。

私たちは一生の間に多くの人々と巡り合っていて、やがていつの日にか別れていくものですが、まずその人が善きひとであるかを理解する力が、その時の自分に備わっているかどうかということになります。それと同時に、自分自身が善き人たり得たのかということになります。自分が未熟なために、善き人とめぐりあって善き人と自覚することもなく通り過ぎてしまっていたとしたら、悔やまれる損失多き人生ではないのでしょうか。

人には情緒的思考があり、美しいものを美しいと感じる心をもっているかどうかということになります。このことは、人に対してだけでなく、自分自身を見つめたときにも、そのことが自覚し得なくてはなりません。さらに、ものごとの真実、本質を理解、認識する能力という知的な面が人には加わっております。これらのことはただぼんやりしては何も身につけることは出来ません。まず、静かに自分を身つめることから出発することになります。そこにいまある自分とあるべき自分を対決させてみることになります。問題は、あるべき自分を思い描き、そこに一步一步近づいていくことが大切なことになります。

その歩みは、他ならぬ自分でしか成し得な

いものであり自己啓発の本質がここにありません。それは自分自身を人間として、高めていくということを意味しており、より善き人の話を聞くこと、善き人と語り合うということで、こうした活動を通して、自分を磨いていくということになります。

昔から、あるべき人の理想像として「親善美」とか「知情意」などといわれているように、自分の身の周りに、人生をさわやかに力強く生きている人がいたら、その人を観察してみたいものです。そしてそのさわやかさと力強さは、その人のどこから生ずるのかに思いをはせてみたいものです。「親善美」「知情意」といわれるものは、けっしてばらばらなものではないはずで、これらが三位一体となり、その人のさわやかさと力強さにつながってきているのではないかと思う。

そのことが真にわかるためには、自分自身がさわやかな心をもって見つめ、その人に接していかなければならないでしょう。

社会の中でも、私生活の上でも、わが人生をさわやかに力強く生きていきたいものです。



新入会員紹介

◎倉田 矩正先生(安代町診療所)
年 令:50才
出身地:千葉県
出身校:千葉大医学部
診療科目:内科(消化器、臨床病理)
勤務の時期:平成5年4月1日より
(前任地は千葉県がんセンター)
趣 味:テニス、ジョギング、登山、
野球、スキー

[ひとこと]

生まれてこの方初めて千葉県を離れ、岩手県の自然の美しさには感激しています。そして医師会の先生方の暖かい心遣いで、患者さんの問題はじめ大変有難く思っております。困っているのは言葉で、患者さんの話が仲々良く分かりません。まだかけ出しですので皆様よろしくお願い致します。

◎星野 正中先生(東八幡平病院)
年 令:63才
出身地:千葉県
出身校:岩手医大
診療科目:産婦人科、内科、良導絡科
勤務の時期:平成5年1月より
(以前、千葉市で開業していた)
趣 味:映画、ビデオ鑑賞

[ひとこと]

学生時代とすっかり変わった岩手県にとまどって居ります。今後共皆様の御指導をよろしく願います。

◎久保谷 康夫先生(鶯宿温泉)
年 令:43才
出身地:茨城県つくば市
出身校:岩手医大昭和50年卒、同大学院昭和54年卒
診察科目:整形外科、リハビリテーショ

ン科

開業の時期:昭和58年4月
趣 味:GOLF(HD9)、野球
(昭和51年岩手県医師会野球大会最高殊勲選手賞)

◎吉島 一夫先生(八角病院)
年 令:70才
出身地:盛岡市
出身校:岩手医専16期
診察科目:内科
勤務の時期:平成5年5月より

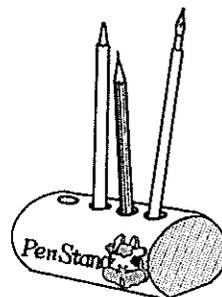
(盛岡鉄道病院、市立盛岡結核療養所、国保東磐井郡沖田診療所、国保西磐井郡平泉町長島診療所、朝日生命保険相互会社盛岡支社を経て)
趣 味:油彩少々、ゴルフ少々

[ひとこと]

何しろ久しぶりの臨床です。老健施設とはいえ大変です。クスリの名前をおぼえるのに四苦八苦です。宜しくお願いします。

その他新入会員

守 義 明(滝沢中央病院)4月1日より
吉 田 寿 子(滝沢中央病院) ”
藤 村 剛 男(滝沢中央病院) ”
坂 正 毅(工藤病院) ”



今日の話から

低い開業への意欲 日医が勤務医現状調査

日本医師会が未加入者を含めた勤務医を対象に行った意識調査の概要がまとまった。病診連帯など地域医療の中で開業医と勤務医の連帯確保の重要性が指摘される中、調査結果によると一割以上の勤務医が地域医療活動などの医師会活動に全く参加していない。また、四割近くが開業の医師をもたず、全体的に開業志向は低いことも浮かび上がった。

調査結果によると、医師会活動への参加状

況は、生涯教育活動に参加・協力しているが20.3%と最も多く、救急医療活動13.5%、学校保健活動8.4%、産業医活動8.2%の順。

開業医予定については、「意志なし」が36.2%、「状況によっては開業も考える」が25.2%。一方、「2年以内に開業予定」としたのは6.1%にとどまるなど、全体的に開業志向が薄いと見える結果となった。

甲乙一本化 3基準見直しで基本的に合意

中医協・診療報酬基本問題小委員会で、来年の診療報酬改定で甲乙一本化や、看護、給食、寝具の3基準の見直しの方向などについて各側が合意、安定的な改定財源の確保策に

関しても、事務局案に盛り込む考えを確認した。

小委は8月は開催されず、事務局案は全員懇を経て9月の小委の提示される。

編集後記

● 表紙写真は玉山の三善先生からの提供ですが、いかにも湖の波静かな情景、朝早い雰囲気と、白雪をいただく岩手山と五月中旬のもう雪のない姫神山が対称的で、実際にこんな場面が見えるのか(?)と不思議に思えたものです。早起きして撮ったとのこと貴重な写真どうもありがとうございます。

● 7月3日の郡医師会総会は平成4年度の決算についての承認を得るものですが、そのあとの学術講演では御多忙の中、東北大第一内科教授白土邦男先生がわざわざ仙台よりお出でになり、最近の心筋梗塞の状況と治療について解り易く解説して下さいました。最近診断技術の進歩に伴って治療方針の決定、病状の改善など治療効果も格段の進歩を示している現状が理解できた。

● そのあと行われた懇親会は、春の叙勲でへき

地医療と保健衛生に貢献された葛巻町の近藤純造先生の受章祝賀会も兼ねて行われました。また、先生からはこのたびの受章に際し過去の思い出の数々を思い出すままに御寄稿下さいました。これからも健康に留意されますますの御活躍を期待します。

● 「おらほの先生」には岩手町で産婦人科を開業している塚谷先生に登場していただきました。趣味の卓球はかなりのものでしょう。これからの御活躍を期待します。

● 高橋孝先生の「随想」は、身近な問題を解り易くとり上げていただき非常に興味ある話題提供といえると思います。これからもよろしく願います。

(M. S 記)